

～ワクワクwellness～

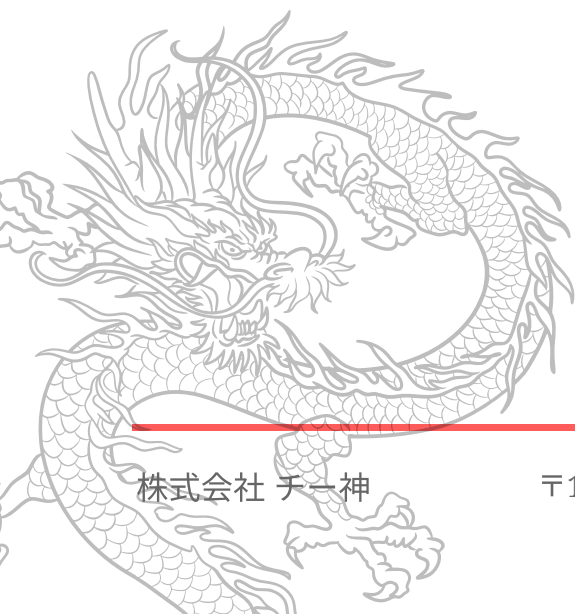
# 心身魂のお掃除処



\* 2/2～3 八海山寒行・節分祭 参加ご希望の方は佐藤まで、連絡ください。

## お知らせ

- |           |                |
|-----------|----------------|
| 12/30～1/3 | 年末年始休業         |
| 01/27     | コトタマワーク & 護摩祈祷 |
| 01/28     | 当院 護摩祈祷        |



## 【祈りは、どこへ向かっていくのか】



コトタマ倶楽部・月1回ゆっくり学ぶ



眠りから目覚める 佐藤智江 HP



次期講座のために、スライドを一枚一枚整えながら、あらためて感じたことがあります。

佐藤は今も、お護摩を焚きます。祓いもします。

それらは、今の時代には、まだ必要なものだと感じています。

でも同時に、いつか、それさえも必要なくなる時代が

もっと早く来てほしい。そんな思いも、心の奥に静かにあります。

祓いも、お護摩も、本来は

「人の心を整えるための補助」だったはず。

もし、**人が自分の内側に自然と還れたなら、**

祈りが特別な行為ではなく、日々の在り方そのものになったなら、

**焚かなくても澄んでいる。祀らなくても敬っている。**

そんな世界があってもいいのではないかと、思うのです。

仏壇も、神棚も、なくなるというより、外に置かれていたものが、内側に還っていく。そんな感覚です。

**ご先祖はお墓の中ではなく、生き方の中に息づき、  
神は祀る対象ではなく、生き方そのものとして現れる。**

では、その「内側」とは、どこなのでしょう。

佐藤は、日本語という日常のことばの

**一音一音に、祈りそのものが、響いている。** そう感じています。

特別な道具も、特別な形もなく、私たちはすでに

**日本語を話すその瞬間から、祈りとともに生きている。**

だからこそ、祈りは儀式ではなく、生き方として

息づいていくのだと思うのです。

新しい年の始まりは、何かを足すより、すでに在るものを

思い出す時間。次期講座のスライドを整えながら、

佐藤はそんな未来をあらためて思い描いていました。

**まだ焚く。まだ祈る。でも、それに依存しない。**

その“間”に立ちながら、これからの講座も、

丁寧にお伝えしていきたいと思います。

**祈りが 暮らしとなり  
生き方そのものが 神となる**

家呑みトモごはん

### 【レタスのワサビスープ】



①鍋に水とだしを入れて火にかけ、沸騰直前で、レタスをちぎって入れる。（煮過ぎない）

②豆腐・塩・醤油で味を整え 溶き卵。

③火を止めてからワサビ（約200ccの水に、チューブのもので、6~7cm・・・結構入れます）

④盛り付けの時、白ごまを♪

香付けの油次第で、和・洋・中アレンジもGU〜